

皆さん おはようございます。

3回目の定期テストが終わり、そして本日は前期後期の終始業式となりました。この後、各教科科目の成績が皆さんの手元に届くわけですが、通知表の数字にだけ一喜一憂するのではなく、なぜその成績だったのか自問し、さらに教科担任をはじめとする先生方に今後の改善方法等を相談してみてください。

さて、本日は学校外での実習や体験学習に焦点を当てて話をいたします。まずは、9月2・3日に一泊二日で2年生ものづくり系列に所属する生徒10人が総合教育センターに行ってレーザー加工機等について学んできたことからです。校内にはない機械に触れ、それを操り、そして自分のデザインした作品を持ち帰ってきました。その時に記入した感想のまとめが私のところに届きましたので、一部ですが紹介します。

- レーザー加工技術はとてもすごくてびっくりしました。自分が納得できる作品を作れて、とても良い経験をしたなと思いました。
- レーザーの機械は、迫力があってビックリしました。
- 実習を通して「世の中には、僕たちの知らない機械がたくさんあるんだ」と驚いた。

続いて、経営ビジネス系列の2年生18名が、11日に日帰りで校外実習に行ってきました。やはり場所は総合教育センターです。現在、昇降口に展示されていますので皆さん毎日見ていると思いますが、商品を入れる紙袋をデザインしてそれを形にまでしてきました。その感想の一部は以下のとおりです。

- グラフィックソフトというものを、今日初めて使ったけど、文字や図形の工夫をたくさんできるようになったので良かったです。
- 今回のパッケージデザインをしてみて思ったことは、「意外にも自分で考えてデザインを作るのは楽しいんだな」です。
- 普段体験できないことができて、とても楽しかったです。

ものづくり系列の生徒10名、経営ビジネス系列の生徒18名、とてもいい経験をしてきましたね。学校の中だけでは経験できないことから、学ぶものは大きかったと思います。何より、初めての体験に驚いたり、不安を感じながらも達成感を得たりしたことはこれからの学習活動に生きるのではないのでしょうか。

では、こういう経験は総合教育センターに行かなければできないのでしょうか。いいえ、そんなことはありません。身近なところにもたくさん素材があります。たとえば9月18日付の市民タイムスに掲載された記事、皆さん、読んでみましたか？3年生の総合研究で、最近急増しているインバウンド（外国人旅行者）へのインタビュー

から研究を深めるという内容でした。馬籠宿と妻籠宿の間に「一石枋立場茶屋（いちこくとちたてばちゃや）」という無料休憩所があるのですが、そこにいろいろな国籍の方々が立ち寄って、しばし歓談し情報交換をしています。そこに本校の3年生が訪問し、英会話の勉強も兼ねてインタビューをしました。三週に渡って9名の生徒が参加しましたが、最初はなかなか話しかけられずおどおどした感じでした。でも、徐々に慣れてきて普通の会話ができるようになっていました。

9月21・22日の土日には、なぎのこマルシェが地元南木曽町で開催されました。場所は南木曽会館。マルシェというのはフランス語で「市場」を表します。その開催の目的は「南木曽町の魅力を発信・再発見する」「主催者・出店者・来場者のすべての人が楽しめる」「南木曽の地・物・人を好きになってほしい」ということで、今回で5回目の開催となります。そこに本校の3年生も出店させてもらい、多くの人たちと関わる中で南木曽町に人を呼び込むために何をすればいいのか考えました。参加したふたりは、南木曽ろくろ細工の技術を学び、こけしの形を削り出し、来場者の方々に色付けをしてもらうということをテーマに、2日間、いろいろなことを考えたはずでした。

最後になりますが、9月7・8日には、県教育委員会が主催する「生徒の主体性を育む夏合宿」が行われ、本校からは先日の選挙で選ばれた新生徒会長が、たった1名ですが参加しました。全県から集まった71名の高校生、18名の大学生と社会問題や教育問題等について議論し、自分たちなりの意見をプレゼンテーションで発表するというものでした。多分、最初は見ず知らずの県内高校生との議論に戸惑ったと思いますが、次第に打ち解け大勢の県内高校生と自由闊達に意見交換できたと聞いています。

さて、本日の講話で私が言いたかったことは次の三点になります。

- ✓ 学校で先生や教科書から学ぶことは大切なこと。
- ✓ その上で学校「外」に出て、未知な世界や人と積極的に接すること。
- ✓ そうすることで触発され、新たなものが生まれる可能性が高くなる。

人は誰しも「未知との遭遇」を怖がる傾向にあります。しかし、それを越えたところに自分自身を伸ばせる場や時間があるのではないのでしょうか。学校という、ある意味気楽な世界から、まずは一歩踏み出してみることを皆さんに伝え、終始業式の講話とします。

蘇南高校長・小幡 正樹